

名前：

私は、これから先も雑誌や新聞は消えては
ならず、インターネットのニュースはあくま
で補助的なものであり続けるべきだと考える。
確かに、インターネットを介して行われる
情報発信は便利である。何よりも迅速である
し、パソコンや携帯端末を用いて、誰でも簡
単にアクセスすることができる。また、基本
的には無料、あるいは低価格で情報を閲覧す
ることができるとも大きな魅力の一つであ
る。

一方、雑誌や新聞は、ある程度間のあいた
定期的な情報発信であるから、常に最新の情
報というわけにはいかないし、それらから情
報を得るためにはそれなりの金額が払われる。
新聞であれば配達が主流であるから、手に入
れる手間もそれはどないが、お店へ行つてお
金を払って購入しなければならないとなると、こ
れはなかなか面倒である。

このように並べてみると、なるほどインテ
ーネットは非常に便利であって、雑誌や新聞

は不便な前の時代の遺物のようにも思える。

しかしながら私はそれでも新聞や雑誌が存
在し続けなければならぬと思う。それはこ
の紙文化の代表であると考えられるから。
紙文化に含蓄があるもの、たとえば絵画や本
といったもののない世界を考えるとほしい。
全てがデジタル化された世界—それを薄気味
悪い、無味乾燥な感じがあると考えるのは
私だけではないだろう。弱いものは淘汰さ
れていくのがこの世界の掟である。未来の世
代から見れば、今私が抱えているのは懐古趣
味以外の何物でもないかもしれない。事実、
私は多くの人と同じように、インターネット
を未来につらなるもの、紙文化を過去につら
なるものとして捉えている。しかし私たちが
中からそのような感情が消えてしまいうまでは
紙文化に対する人々の信頼や愛着は消えない
であろうし、そうである以上あえて消し去
うとすることはまづ正しいことではないの
だ。それがいくら感情論であっても。